

USMCA2015 が開催されました（2015/10/29-31）

テーマ：2013 年台風ヨランダ、建物被害分析、フィリピン、2015 年ネパール地震
場所：ラディソンホテル（ネパール、カトマンズ）

10 月 29 日から 31 日にかけて、USMCA2015（14th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia）がネパールのカトマンズで開催されました。

災害科学国際研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）は、2 日目となる 10 月 30 日に、「Building Damage due to 2013 Typhoon Yolanda in Basesy, the Philippines」と題し、2013 年台風ヨランダによって甚大な被害をもたらされたフィリピンサマル島バセイにおける建物被害分析について発表すると共に、「災害に備えた事前対策」のセッションで議長を務め、活発な議論が展開されました。

3 日目に行われたテクニカルツアーでは、今年 4 月にネパールで発生した地震の被災地サク（SANKHU）をまわり、被災状況と復旧状況を視察しました。また、現地の NSET（National Society for Earthquake Technology-Nepal）を訪問し、活動内容についての説明を受けました。NSET の活動は、学術的知見を政府、コミュニティ、学術機関などに広く普及させることを目的としており、当研究所のミッションである実践的防災学とも共通点が多く、いろいろと学ぶことも多々ありました。

次回の USMCA2016 はフィリピンのタクロバンで開催が予定されています。UN-Habitat や災害研とも協定を結んでいる University of the Philippines（フィリピン国立大学）の協力のもと、2013 年におきた台風ハイエンからの 3 年間の復興をテーマに行われる予定です。災害科学国際研究所でも台風ハイエンによる被災直後から調査団を派遣し、被災状況や調査・解析結果の随時公開や、復旧・復興研究に取り組んでいるため深い関わりがあります。これまでに当研究所で従事してきた関連研究の発表が期待されます。



USMCA2015 開催の様子



ツアーでの被災地視察



被災地の学校視察



被災現場の様子



NEST 外観



NEST の活動報告